

発行元：(一社)相模原市高齢者福祉施設協議会 事務局
E-mail：Sagamihara-koureikyo@peace.ocn.ne.jp

TEL：042-707-1136 FAX：042-707-1217
HP：<http://sagamihara-koureikyo.org/>

●相模原市高齢協の活動指針

本会は、高齢者福祉施設が使命とする高齢者の支援等を基本に、地域福祉の推進とサービスの質的向上を図るため、会員施設及び事業所相互の連携と共通課題について研究協議を行い、相模原市内に所在する施設及び事業所の健全な発展と高齢者福祉の推進に寄与することを目的としています。

●合同施設長会、賛助会員懇親会 開催

7月18日、相模原市民会館にて合同施設長会が開かれました。

相模原市からの、「高齢者保健福祉計画」の策定、「高齢者支援センター」の設置計画などの報告・情報提供をはじめ、介護職員初任者研修、かながわ高齢者福祉研究大会、介護の日大会関連事項等、それぞれの担当者からの連絡・報告がなされました。

本会終了後は、各地区ごとに分かれ、「地区会」が持たれました。

同日、相模原市行政関係者、社協関係者、賛助会員を交え、懇親会が開催されました。出席者64名、相互に親交を深める有意義な一時となりました。



●現任研修「介護職ができる医療行為・臨床データとバイタルサイン」開催

7月13日、「介護職ができる医療行為・臨床データとバイタルサイン」と題して、社会福祉法人 久寿会理事長で認定薬剤師、萩原秀男先生、青根苑 施設長で臨床検査技師、石橋正和先生を講師に迎えた現任職員向けの講座を開催しました。

介護業務と密接に関わる医療分野。「くすり」の扱い方や作用機序、その周辺の事柄、バイタルサインの測定法など、介護職が知っておくべき知識、知っておくとケアの質を格段に高められる知識が盛りだくさんの内容でした。

介護～医療双方に対して豊富な知見を有する専門家の視点から、ポイントを押さえた、本年度最初の一般研修に相応しい有意義な講座となりました。



●専門講座「生活相談員のストレングス」開催

7月20日、主として生活相談員や施設ケアマネ向けに、ソーシャルワークに関する「生活相談員のストレングス」と題した専門講座を、特別養護老人ホーム「やすらぎの家」副施設長、林正先生を講師に迎えて開催しました。

「環境」と「利用者」の関係性に視点を置きつつ「ストレングス・モデル」に立脚し「アドボカシー」や「自立支援」を重視したケアを確立するためのソーシャルワーク…その実現を目指すという内容。相談業務に携わる相談員やケアマネジャーだけでなく、施設職員一般にも役立つ示唆に富んだ講座でした。



●専門講座「デイサービス職員が知っておきたい 高齢者虐待防止の5つのキーワード」開催

7月27日、主としてデイサービス職員向けに、「高齢者虐待防止の5つのキーワード」と題した専門講座を、社会福祉法人 神奈川県社会福祉事業団 経営管理・財務担当参事、佐野芳彦先生を講師に迎えて開催しました。

高齢者虐待を防ぐためのポイントを、法律上の観点、事業所におけるケア、在宅における家族のストレス軽減などの支援のあり方等から捉え、具体的な知識、構えについて学びました。デイサービス職員のみならず、介護現場に従事する関係者誰もが知っておくべき内容を網羅した有意義な講座でした。



●「オーストラリア・シドニー認知症国際会議研修」レポート（2）

相模原市高齢者福祉施設協議会 会長 大久保 祐次

前号に引き続き、オーストラリアのシドニーで開催された「認知症国際会議」参加を目的とした「日本CPAT研究会」主催、研修ツアーのレポートを掲載します。

●シドニー認知症国際会議

6月7,8日はシドニーヒルトンホテルで認知症国際会議に参加しました。この会議はコンベンション形式でハモンド財団が主催するものです。2011年より始まった認知症国際会議は今回で開催5回目となります。隔年開催で回を増すごとに国際色も豊かになってきています。私はこの会議に2012年から参加していますが、年々規模も拡大し、研究発表内容も広がり深みも増しているように思えます。認知症国際会議のレポートに入る前に、短期間で国際会議を開催するまでに成長したハモンド財団について、日本に関連するエピソードからその秘密を探ってみましょう。

1990年代の後半、ハモンドケアは自分たちと同じような考え方を持つ日本の施設とコンタクトをとり、経験を共有したいと考えて来日、岩手県のとある施設にたどり着きました。そこは当時日本にできたばかりのグループホームで、ハモンドのスタッフが訪れた時には認知症高齢者と施設職員やご近所の皆さんが一緒になって七輪でサンマを焼いて食べていたそうです。その姿にハモンドのスタッフはとても共感し、この施設との共同研究を始めました。



International Dementia Conference | 7-8 June 2018

MISSION IMPOSSIBLE? TRUTH & LIES IN THE AGE OF CHOICE

Call for papers: now open for submission

ハモンドがこの施設を共同研究の対象としたのは、単にサンマを焼いていたからではありません。その背景にはしっかりとしたケアの理念があり、同じような理念を持った施設と交流し、互いの質を高め合いたいという目的があったからと言えるでしょう。当時のDSDC（認知症サービス開発センター）所長のリチャード・フレミング氏が語ったケアの理念についての言葉を引用し、そのあたりの考え方を説明します。

質の高いケアを提供するための基本的なコンセプトには6つの要素があります。

まず1つ目は「**明確なケアの理念を持つ**」ということです。これは言い方を変えますと、私たちはどこで何をしようとしているかをはっきりさせるということです。

2つ目は「**環境**」。環境自体が障害を軽減するようなものでなければなりません。

そして3つめは「**入所者1人ひとりの個別ニーズに応えるプランを立てられるシステム**」です。

4つめは「**はっきりとした入所基準を設けること**」。

5つめは「**退所基準**」。自分たちの施設では適切なケアが提供できなくなった人に適切なところへ移っていただく時に、そのための正しい判断をするための基準です。そして最後に、「**しっかりとした評価（アセスメント）システムを持たなければならない**」ということです。

これらの要素が、同じ場所で、同じ時間に導入されていれば、そこでは認知症のケアを最良・最大の形で提供できるでしょう。

さて、私たちの施設にはいくつ当てはまるものがあるのでしょうか？ このコンセプトは今でも変わっていません。私がハモンドケアと付き合い始めた2000年あたりと比較すると、その後の十年間で劇的な飛躍を遂げています。しっかりした理念やコンセプトを確立することがいかに利用者や職員を支え、ひいては施設や法人を目的の方向に牽引していくのだということが分かります。

話が長くなってしまいましたが、今回の認知症国際会議で行われた主要な研究発表について報告します。

◆ 認知症国際学会オープニング講演 ◆

Ken Wyatt

(Minister for aged care)

認知症の発症過程に関する国際的検証試験

(EPAD) がおこなわれるそうです。世界中から数万人が参加することで、人はなぜ認知症になるのかが明らかになることでしょう。薬でβアミロイドの蓄積を阻害できても認知症の発症は防ぐことができなかったことで、認知症の解明は次の段階に入ったと言っても良いでしょう。



◇「選択の力」◇

Sheena S. Iyengar 教授
(コロンビア大学ビジネススクール)

日本でもTVの白熱教室や著書「選択の科学」で有名なSheena S. Iyengar 博士の講演をきくことができました。人は選択肢が多いと選択できないことを解明した盲目の教授です。京都大学とも共同研究しているらしく、とても日本通でした。

7つ以上の選択肢は人の限界を超え、人に選択することを諦めさせるようです。

◇ 認知症による行動障害 ◇

Stephen Macfarlane 教授
(D.S.A.臨床責任者、老年精神科医)

認知症による行動障害(暴力などの問題行動)を向精神薬で抑えようとしてきたのはどの国でもやってきた過ちです。しかし、解決策は対象を観察し、評価して彼が何をしたいかを見出し、それをバックアップしてあげることだそうです。

1980年代のオーストラリアにおける認知症患者への対応は、日本と同じように大部屋の精神病棟に隔離することでした。なんと悲しい過去なのでしょうか。

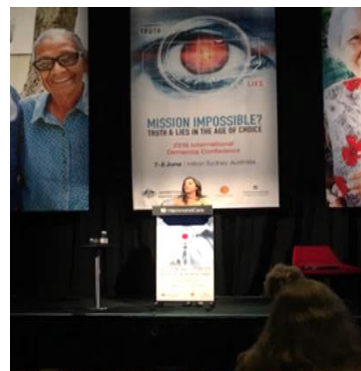
◇時間と認知症◇

John Swinton 教授
(University of Aberdeen)

時計が出来た時、時間は消費財となったと神学者は語る。それが現代社会の時間の捉え方であり、効率性を求める考え方につながっている。

認知症患者にとって時間は直線的に進んでいるのではなく、時の感覚が異なっているのだということを私たちは理解しておかねばならない。彼らはゆったりとした時の流れと記憶の世界に生きているのであり、音楽やなんらかの刺激で過去の体験が引き出されている。だから彼らをマイナスのイメージで見るのではなく希望を持った人格として理解し、愛し、受け入れるべきなのである。皆さんには認知症の人がどのような状況にあるのかを理解し、愛情と希望に満ちた介護者であってほしい。

今回のオーストラリア研修に参加いただいたみなさまには心より御礼を申し上げます。次回の認知症国際会議の開催は2020年です。ぜひ一緒に参加しましょう。



●平成30年7月豪雨災害支援義援金のご報告

「平成30年7月豪雨災害」支援として義援金へのご協力ありがとうございました。8月30日、「公益財団法人全国老人福祉施設協議会災害支援事業」宛に送金させていただきました。以下にご報告いたします。

会員施設からの義援金	81,000円
高齢協からの義援金	200,000円
合計金額	281,000円

●世界アルツハイマーデー啓発事業（相模原市社会福祉協議会 主催） 講話と映画「ケアニン～あなたでよかった」上映会のご案内

9月22日、相模原市社会福祉協議会主催により、『世界アルツハイマーデー啓発事業』として、講話と映画の上映会が開催されます。相模原市高齢協も協賛しています。奮ってご参加ください。

日時 9月22日（土） 午後1時～

会場 市立あじさい会館 ホール

講話「認知症の理解と支援」「認知症当事者の話」

映画「ケアニン～あなたでよかった～」



（案内HP <http://www.sagamiharashishakyo.or.jp/information/2018-0802-0901-8.html>）

●各種イベント・活動報告（7月）

12日 特養部会生活相談員会議
18日 理事会・定期総会
20日 高齢政策課 意見交換会
23日 事務局会議

17日 デイ部会施設長会
20日 業務効率化調査委員会
20日 デイ部会相談員会議
24日 養護・ケアハウス部会

●賛助会員

愛知金物建材 株式会社
株式会社 ウェブトラスト
株式会社 タマパーク
Office CPSR（臨床心理士・社会保険労務士事務所）
株式会社 三ノ輪建設
望月史郎公認会計士事務所
シープラス 株式会社
株式会社 中島建設
住宅型有料老人ホーム 勢水
住宅型有料老人ホーム あんず
株式会社 永田屋
日本ゼネラルフード 株式会社
株式会社 IDO
株式会社 太陽住建
株式会社 リンク・アップ

株式会社 コンティ
守屋綜合法律事務所
千寿産業 株式会社
株式会社 ケイ・アース
株式会社 みらい
株式会社 ディフェンス
アライブかながわ
住宅型有料老人ホーム 田名新宿住宅
日興テクノス 株式会社
株式会社 きらぼし銀行 相模原法人営業部
株式会社 ナリコマエンタープライズ
相模原商事 株式会社
ケアミックス 株式会社
福永隆太(株式会社タウンニュース社)

敬称略／加入順

●編集後記

広報紙第11号をお届けします。今後もより一層、内容を充実させてゆく所存です。施設や職員の紹介、イベント案内など、どんなものでも結構です。ご意見、情報など、どんどんお寄せください。ご協力をお願いいたします。

連絡先は、相模原市高齢協 事務局（広報誌担当）まで

〒252-0236 相模原市中央区富士見6-1-20（あじさい会館内）

TEL：042-707-1136 FAX：042-707-1217 E-mail：Sagamihara-koureikyo@peace.ocn.ne.jp